第2回

東大阪市連携7大学 公開講座

東大阪市連携7大学が各大学の特徴を生かして≪時の話題≫や≪課題≫を分かりやすく解き明かします。ぜひ受講してください！

「東大阪市連携7大学公開講座」とは・・・

★生涯学習ニーズが多様化し、その具体的な活動も多岐に亘って きている中、本市にある5大学（大阪商業大学・近畿大学・大阪樟蔭女子大学・樟蔭東短期大学・東大阪大学）及び近隣2大学（大阪産業大学・大阪経済法科大学）の計7大学と連携し、各大学の異なる学風や研究成果をひとまとめにし、市民生活や地域活動に直結するテーマを取り上げました。

★あなたの「知りたい」に応える、東大阪市連携7大学講座を受講してみませんか！

東大阪市　教育委員会
社会教育センター主催

記号	講座日	開催時間	大学名	講演テーマ	講師
A	2/18(月)	13:00～14:30	東大阪大学短期大学部	葉酸と赤ちゃんの健康	健康栄養学科　教授　源　伸介 先生
B		15:00～16:30	大阪産業大学	深読みの楽しみ -名句・名歌読解-	人間環境学部　文化コミュニケーション学科 教授　浅井　伸一 先生
C	2/19(火)	13:00～14:30	大阪樟蔭女子大学	戦時下の少女 ～田辺聖子の少女時代の作品を読む～	学芸学部　国文学科　教授　中　周子先生
D		15:00～16:30	大阪経済法科大学	京都に白象がやってきた：長崎日中貿易秘話	教養部　教授　華（ファ）　立（リー） 先生
E	2/20(水)	13:30～14：00	(協賛)ホテルセイリュウ	モノづくり観光の取り組み状況と今後の展開	一般社団法人　大阪モノづくり観光推進協会 専務理事　足立　克己　様
		14:00～15:30	近畿大学	よりよい地域づくりを市民の手で -協働のまちづくり入門	総合社会学部　総合社会学科　環境系専攻 教授　久　隆浩 先生
F	2/25(月)	13:30～14：00	(協賛)ハウス食品㈱	ハウス食品の歴史とCSR活動 （企業の社会貢献活動）	ハウス食品株式会社　総務法務部 部長　向井　直人　様
		14:00～15:30	大阪商業大学	高齢期のクオリティ・オブ・ライフ～社会調査の結果から高齢期のライフスタイルを読み解く～	総合経営学部　公共経営学科 准教授　宍戸　邦章先生
G	2/26(火)	14:00～15:30	樟蔭東短期大学	若手教員が葛藤・困難体験から学んだこと	生活学科　教授　石上　浩美　先生

受講者プレゼント

A～Gの各講座ごとに受講者の方には、もれなく協賛企業のハウス食品㈱様、ホテルセイリュウ様より素敵な**プレゼント**をご用意しております。

■開　催　日■　平成25年2月18日(月)・19日(火)・20日(水)・25日(月)・26日(火)　■対　　象■　どなた様でも大歓迎

■会　　場■　ヴェル・ノール布施　夢広場5階の多目的ホール（近鉄布施駅北側）　■受　講　料■　無料！

■定　　員■　A～Gの講座いずれも各170名（先着順）　平成25年1月31日(木)までにお申し込みください。

（①往復ハガキ：当日消印有効、②パソコン：当日中の申込有効）（各講座とも定員に到達しだい、受付終了）

■お申込方法■　次の①②のいずれかの方法にてお申し込み下さい（メール、従来のQRコードによるお申し込みはできません）

①往復はがき⇒「講演テーマの記号（A～G）[複数講座の受講希望可]、「氏名(ふりがな)」、「住所」、「年齢」、「性別」、「電話連絡先（携帯電話番号も）」明記。 後日、返信はがきを受講票としてお送りいたします。

②パソコン（インターネット上）⇒東大阪市役所ホームページ（http://www.city.higashiosaka.lg.jp/）→「教育委員会」→「■社会教育」→「■東大阪市連携7大学公開講座」より必要項目入力。 後日、受講票をお送りいたします。

★ 都合によりキャンセルされる場合は必ず2/14（木）までにご連絡ください（2/15以降のキャンセルはお受けできません）
★ 個人情報につきましては、当講座のご連絡以外には使用いたしません。
★ 各講座とも手話通訳配備。　★2/20及び2/25の両日は協賛企業様からのご講話もあります。

■問合せ・申込先■　東大阪市立社会教育センター 「東大阪市連携7大学公開講座」担当
住所：〒577-0056　東大阪市　長堂1-17-29
TEL：06-6789-4100　FAX：06-6789-5212　E-mail：shakyocenter@city.higashiosaka.lg.jp

回　覧										

～知をあなたに　Campus Report～
第2回「東大阪市連携7大学公開講座」の各講座の概要

記号	講座日	開催時間	大学名	講演テーマ	講師
A	第1日目 2/18（月）	13:00～14:30	東大阪大学短期大学部	「葉酸と赤ちゃんの健康」	健康栄養学科 教授 源　伸介 先生
	元気な赤ちゃんを産むために、妊娠中のお母さんがとらなければならない栄養素としては、体をつくるたんぱく質、血液をつくる鉄、骨や歯をつくるカルシウムなどがあります。それに加え、注目されているのが、ビタミンB群の一種である「葉酸」です。しかし、わが国では、葉酸摂取不足から起きる赤ちゃんの脳や脊椎(せきつい)の病気が、近年増えています。こうした現状と葉酸摂取の普及にかかわる取り組みについてご紹介します。				
B	第1日目 2/18（月）	15:00～16:30	大阪産業大学	「深読みの楽しみ－名句・名歌読解－」	人間環境学部 文化コミュニケーション学科 教授 浅井　伸一 先生
	世に評価の高い名句名歌をとりあげて、それが優れた作品である理由について考えてみました。その句のどこが面白いのか、その歌にはどのような秘密が仕掛けられているのか、歌語の歴史、季語の一般的イメージなどを参照しながら、よく知られた詩歌を読み直します。詮索、分析の届かぬところで価値の更新をするものこそが傑作でありましょうけれど、しばし立ち止まって、豊かに深く読む楽しみを味わっていただければと思っています。				
C	第2日目 2/19（火）	13:00～14:30	大阪樟蔭女子大学	「戦時下の少女～田辺聖子の少女時代の作品を読む～」	学芸学部　国文学科 教授 中　周子 先生
	文化勲章受章作家として高く評価されている田辺聖子の少女時代の習作「十七のころ」が、発見されました。田辺聖子が樟蔭女専時代、まさに十七の時に書いた短編です。興味深いことに、その作品には、早くも、後年の田辺文学の萌芽が見られます。いわば、田辺文学の原点とも呼ぶべき作品です。 本講座では、「十七のころ」を読み解きつつ、戦時下に多感な少女時代を送った田辺聖子の「心の声」に耳を傾けてみたいと思います。				
D	第2日目 2/19（火）	15:00～16:30	大阪経済法科大学	「京都に白象がやってきた：長崎日中貿易秘話」	教養部　教授 華（ファ）　立（リー） 先生
	1729年、一頭の白(はく)象(ぞう)が京都で天皇と対面したのち江戸に向かいました。将軍の指示で中国商人がベトナムから連れてきたのです。この逸話からも分かるように、鎖国期の長崎港は貿易はもとより文化受容の重要な窓口でもありました。長崎と聞くと、「出島」を連想する人が多いですが、実は、オランダ船より「唐船」の来航がはるかに多かったのです。また、日本の「棹(さお)銅(どう)」の輸出には大坂商人が大きく関与していました。知られざる長崎貿易の諸相を数々の秘話を交えてご紹介します。				
E	第3日目 2/20（水）	13:30～14:00	≪協賛≫ ホテルセイリュウ	「モノづくり観光の取り組み状況と今後の展開」	一般社団法人　大阪モノづくり観光推進協会専務理事 足立　克己　様
		14:00～15:30	近畿大学	「よりよい地域づくりを市民の手で―協働のまちづくり入門」	総合社会学部　総合社会学科 環境系専攻　教授 久　隆浩 先生
	東日本大震災、原発事故、私たちは今社会の転換点に立たされています。今までの社会のしくみを変え、私たち自らが関わって地域や社会をよりよいものにしていく、そんな試みとして協働のまちづくりが進められています。市民の手でまちづくりを進めるためにはどのようなことが必要なのか、またそれを支援するしくみについて、わかりやすくお話したいと思います。無理なく楽しくできるまちづくりの実践方法について考えてみませんか。				
F	第4日目 2/25（月）	13:30～14:00	≪協賛≫ ハウス食品㈱	「ハウス食品の歴史とCSR活動（企業の社会貢献活動）」	ハウス食品株式会社 総務法務部　部長 向井　直人　様
		14:00～15:30	大阪商業大学	「高齢期のクオリティ・オブ・ライフ～社会調査の結果から高齢期のライフスタイルを読み解く～」	総合経営学部 公共経営学科　准教授 宍戸　邦章　先生
	家族や地域社会の変容にともなって高齢期のライフスタイルも変化してきています。社会学や社会心理学の分野から、高齢期の「生活の質」にかかわる研究を紹介します。東大阪市内で行った社会調査や、日本全国の成人を対象とした社会調査（JGSS）の結果についても触れ、高齢期に孤立しやすい人の特徴や高齢期に高い幸福感を維持している人のライフタイルの特徴を検討します。高齢期の生活と地域コミュニティの関わり合いについても考えたいと思います。				
G	第5日目 2/26（火）	14:00～15:30	樟蔭東短期大学	「若手教員が葛藤・困難体験から学んだこと」	生活学科　教授 石上　浩美　先生
	教員の職務は、日々の実践の中で起こる予測不可能な出来事に対して、即時適切に対応することが求められます。また、自分の過去の実践について、単独または共同で省察しながら改善し、それらを積み重ねながら体験を通して学んでいると考えられます。この講座では、そのような教員特有の省察による学びがどのようなものであるのか、任用後1年目から5年目までの公立小学校に勤務する若手教員18名（男性5名，女性13名）を対象としたインタビュー調査データから示します。				